

製造所の緑地を活用した生物多様性保全への取り組み

林 孝夫（大阪ガス（株）姫路製造所）

はじめに

当製造所は、クリーンエネルギーである液化天然ガス（LNG）を原料とした、都市ガス製造工場として1984年に、操業を開始しました。その後、LNGローリー車、貨車・内航船によるLNG出荷、5万kWガスタービンコンバインドサイクル発電設備による電力供給と、都市ガスだけでなくマルチエネルギーの供給拠点としてクリーンなエネルギーをお客様にお届けしている工場です。

工場の敷地は約46.6万㎡、そのうち緑地は10.8万㎡（甲子園球場の約2.7倍）を占めています。

当製造所は、ベースとしては、環境負荷は少ないのですが、更に環境に配慮し、事業活動において、省エネルギーの推進、温室効果ガスや廃棄物の削減に取り組むと共に、緑地改善や生物多様性保全活動も取り組んできています。

製造所緑地における生物多様性保全の有効性

当製造所の緑地は、以下の生態学的、実務的、社会的な有効性を有しており、生物多様性保全を推進していく上で重要な場として考えられます。

- ①緑地面積が大きく、大きな規模で生物多様性保全に取り組むことができる。
- ②管理されたエリアであり、植物の絶滅・減少要因である乱獲や盗掘のリスクがなく希少種の育成管理が可能
- ③環境が多様であり森林、海浜、草地、湿地、里地、里山といった多様な環境が創出できる
- ④都市から比較的自然の少ない都市部の環境学習の場として役立つ

製造所緑地における生物多様性実践事例

製造所緑地管理コンセプトを『西播磨本来の生物多様性の高い生態系機能を備えた緑地の創出と維持』と設定しており、その中のひとつの活動として、2001年から人と自然の博物館殿と協働で、西播磨産の植物固体の移植試験を行っています。これまでにエビネ、センリョウ、オチフジ等生態的特性の異なるRDBランクA種を含む希少種13種をはじめとした西播磨産植物50種を導入しております。2009年の追跡調査では生存率が80%と良好で、製造所緑地が生物多様性保全の場として、貴重な空間であることが実証されています。



【ビオトープ】



【移植したエビネの生育状況】



【移植したオチフジの生育状況】

まとめ

10年間にわたる我々の生物多様性の保全への取り組みは、研究機関・専門家からも高く評価いただいています。今後、更に生物多様性の保全を拡大するとともに、見える化を行い、情報発信・環境教育を通じ、生物多様性保全の重要性の認知度アップに努めていきます。